

第8回宇宙民生利用部会 議事要旨

1. 日時：平成27年9月28日(月) 10:00 - 12:20

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、白坂部会長代理、石田委員、岩井委員、後藤委員、柴崎委員、高山委員、田村委員、山川委員

(2) 事務局

中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙民生利用に関する工程表の改訂について

9月25日の宇宙政策委員会で了解された「宇宙基本計画工程表改訂に向けた進め方」(資料1)に基づき、事務局より説明を行った。その後、同委員会で了解された「宇宙基本計画工程表改訂における論点」のうち、「宇宙民生利用部会における工程表改定作業で検討すべき論点」(資料2)に基づき、中須賀部会長より説明を行った。

(2) 宇宙民生利用に関する平成28年度概算要求ヒアリング

「宇宙民生利用に関する平成28年度概算要求ヒアリング」について、事務局及び関係省庁から説明を聞いた。当該説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、意見等、説明者等の回答)

海外の動向等を踏まえると、リモートセンシング衛星のデータを無償で提供することや、そのデータの活用の仕方について工夫する等の対応を検討していくべきである。

文部科学省の概算要求には光データ中継衛星の施策があるが、今後の衛星間の通信は光通信が主流となるのか。

衛星間の光通信については、文部科学省と情報通信研究機構(NICT)が連携して研究開発を進めており、その実用化を視野に入れている。衛星と地上施設間についても将来的には光通信となる可能性を検討している。

先進レーダ衛星のニーズや開発方針はどのようになっているのか。

夜間の撮影等のニーズがあり、引き続き日本が得意としているLバンドを基本とした開発を続けていく方針である。

衛星の技術は進化しているが、それに合わせて衛星の利用がどのように進んでいくのかという、ニーズ側から見たロードマップの検討が必要である。

衛星の解像度等が向上することに伴いデータ量も増えるので、データの取扱いが難し

くなる。例えば、アジアにデータを提供する際には、ODA 的な観点も含めて、日本側でデータを処理し、通信環境が悪い国の実情に合わせて提供するという方法も考慮すべきである。

温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) に関して、後継機(GOSAT-2)では、都市単位で温室効果ガスが観測できるのか。

可能である。ただし、精度の向上については今後の課題である。

水資源を観測する「しずく」(GCOM-W) のデータを日本はどのように活用しているのか。

例えば、漁場の探索のための重要な情報としての活用されているように、静止気象衛星等他の衛星からのデータやその他のセンサーからのデータと合わせて総合的な分析がなされ、情報として利用されている。

(3) 災害対応における衛星データの活用について

「災害対応における衛星データの活用」について関係省庁や田村委員から説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、意見等)

災害状況を関係者で共有し、適切かつ効率的に意思決定等を行うために、基本的な地図の上に衛星やそれ以外から得られた被害状況等の情報を複合的に載せてレイヤー構造の情報とし、その情報をクラウド環境で提供する仕組みづくりや、その活用が現在も進められている。今後さらにこれを進めていくことが重要である。

以上